

晴天のなか、町内外から378人が参加しました
第42回水仙まつりロードレース大会

Koho - kenbunroku



5月11日（日）、今年で42回目となる水仙まつりロードレースが開催されました。

晴天のなか、町内外から378人が出場して行われた大会では、ゴール前でのデットヒートのほか、小学5年男子の部（3km）で大会新記録を更新（瀬棚小学校：高橋呂偉くん11分47秒）する好記録が生まれるなど、各部門で熱いレースが繰り広げられました。

なお、各部門の最終結果については、公式ホームページ及び次月の広報で紹介をする予定です。

編集後記

●水仙まつりロードレース大会で、スタッフとして選手のゼッケンを記録する仕事について私は、選手の活躍はもちろん、伴走の皆さんにも驚かされました。後方の選手を確認しながら常に選手をリードして先頭を走るので、並大抵の体力じゃ務まらないんだろうと間近で見ても感じました。しかも、複数のレースを担当し、目立たないけど簡単に交代もできない重要な裏方さんの活躍にも感動です。（児島）

●作家の渡辺淳一さんが先日お亡くなりになりました。そんな渡辺淳一さんがせたな町に縁のある作家さんであることは皆さんご存知でしょうか？先日号で掲載した「せたなのNo.1」でも紹介しましたが、日本初の女医「荻野吟子」さんを題材にした小説「花埋み」はなつづみ」という作品も執筆されており、その際にせたな町へも取材に来たこともあるそうです。そういった縁から、旧瀬棚町の広報誌で「花埋み」の取材ノートを連載させていただいたり、いろいろと町のため快く協力をしてくれた方だったと聞いております。今回の計報は本当に残念ですが、数々の作品は当然また手に取ることが出来ます。もちろん、「花埋み」も同様なので、皆さん機会があったらぜひご覧いただけたらと思います。話は変わりますが先月の編集後記で我が家の会話を掲載したら、勝手にネタにして「出演料が発生する」といってイヤモンを妻と娘につけられました。もちろんそんな話は聞き流しましたが、2人にも渡辺淳一さんのような寛大な心で快く協力してもらいたいものです。（尾野）

